

OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪Ⅱ ゾンタクラブ第32号 (2011年9月)



巻頭言

奉仕活動はダンディズムの精神で

会長 河村 さと子



6月より新会長として活動させていただくことになりました。

大阪Ⅱ ゾンタクラブは2013年に創立20周年を迎えます。

この2年間、会員の皆様のご協力を仰ぎながら、その記念事業の準備を進めていきたいと思ひます。

私がこのゾンタクラブを高く評価しておりますのは、次のような点です。

ゾンタクラブの会員諸姉はそれぞれ社会の第一線で専門職、あるいは、管理職として人並みはずれた仕事をこなしながら、それぞれご自身の時間、体力、気力を割いて、世界のあらゆる女性の地位の向上のための奉仕活動に潔く身を挺していることでもあります。

今、社会や家庭で一番求められているのは、決断力と実行力を兼ね備えた女子力だと思います。

私たちの活動を通じて、次の時代を担う世界中の若い女性に自分を信じる力、自分の未来をイメージできる力、現実を受け止め自己実現する力を示していきたいと思ひます。

私は今、皆様よく御存じの宝塚音楽学校で未来のタカラジェンヌになる若い有能な女性たち全員にボイストレーニングを核とした音楽指導を行っています。

そこで接する音楽学校生徒たちの自分と世界を見据えた力強いパフォーマンス力に日々驚嘆しながら、その成長を見守っています。

また、宝塚歌劇団では、そうした女性たちを輝かせるためにそれをサポートする有能で生命力にあふれた多くの男性スタッフの働きぶりにも感動を覚えます。

女性、男性がそれぞれの役割をきっぱりとした決断力で、つまらない言い訳で逃げることなく、自分のすべきことを遂行することが人間としての美しさであり、ダンディズムであると思ひます。

ゾンタクラブに所属しているの心地よさは、まさにこの点にあると思ひます。

これからも凛々しく自分にあった奉仕活動が続けていきたいと思ひます。

感謝状

大阪市花と緑のまちづくり推進基金として
多額の会員も御寄附賜り
御芳名誠にありがとうございました
三三 深く感謝の意を表します
平成二十一年一月二日
大阪市長 平松邦夫
国際ゾンタ二十六地区
大阪Ⅱ ゾンタクラブ 殿



大阪市花と緑のまちづくり推進基金への寄付

ビジネスセッション

西村 博子



2011年5月21日(土)、第3回エリアミーティングは京都で開催されました。参加総数は179名、当クラブからは10名参加いたしました。早川エリアディレクターの全クラブ、全員参加の熱い想いが、早くから浸透し、多くのゾンシャンが参加をして研鑽いたしました。集約された一日のミーティングであったことも今回の大きな特徴です。

東北大震災におけるゾンタの支援に関しては、上田ガバナーからご報告を受け、また仙台、盛岡のゾンタクラブの会長始め役員の方々から、被災地の状況のご報告を受けて、その復興がどうか前にすすみますようにと祈るばかりでした。私たち大阪Ⅱゾンタクラブも、その支援に大きな協力をすることが出来ました。

ビジネスセッションでは、3月8日「国際ローズデー」に各クラブが一斉にイベントを行うという事項が提案されました。ご存知のように、3月8日は「国際女性デー」であると同時に「国際ゾンタローズデー」です。女性に関する認識が高められ、ゾンタの使命感と責任感を構築するために、この日に日本中のクラブが一斉にアクションを起しましょうという提案です。それぞれの地域性もありますので、同日にというのは難しいかもしれませんが、同じ目標に向かって行動することは、より大きな力になることはいまでもありません。

昼食時に、OMC委員、LAAと奉仕委員によるそれぞれのミーティングも行われて、各クラブの会員状況の報告や意見交換がされました。トレーニングセミナーといわれますエリアミーティングですが、同じエリアのゾンシャンの方々と共に集えるのも楽しみです。次回は2012年5月13日(日)、エリア3と4の合同により神戸で行われます。また、ご一緒に参加しましょう。

末筆ながら、有意義なエリアミーティングをご準備いただきました早川エリアディレクターはじめ上田ガバナー、地区役員の方々に、ホストクラブの京都Ⅱのゾンシャンの方々に、紙面を借りてお礼申し上げます。

♪ありがとうございました。

基調講演

牛田 三千子



基調講演(「若い女性の性と性感染症の実態 子宮頸がんの完全予防をめざして」)は、京都ノートルダム女子大学大学院教授(産婦人科医)の萩原暢子先生による、若い女性の性の実態についてのご講演でした。1990年以降に、若者の性行動、特に女性の性行動に大きな変化があったことはマスコミ等を通じて耳にしていますが、萩原先生による最新の統計データは、かなりショッキングなものでありました。

「交渉相手の多数化」「交渉相手の多様化」「交渉時の無防備化」が顕著で、統計上から特に女性のここ数十年の変化の大きいことがあきらかになりました。携帯電話やインターネットサイトを通じての手軽な出会いが、このような変化を生んでいると考えられます。

将来、妊娠・出産という大事を担う女性の身体が容易に傷つけられるのを防ぐ有効な手立てはないものかを社会全体で考えていかななくてはならないと感じました。

恐ろしいのは性感染症ですが、なかでもHIV(エイズ)は、今でも根治治療薬はなく、発症すれば死亡率も高い恐ろしい病気です。また、クラミジアやコンジローマも女性は重症化しやすいとのことでした。これらの性病を放置しておくとな妊になりやすく、また妊娠しても流産しやすいというデータもあります。

近年、若年女子の性病の増え方が顕著であることから早急な性教育が望まれますが、今は文部科学省の方針もあって公教育での性教育は難しくなっているそうです。教師が意欲を持って性教育に取り組んでも、それは行き過ぎた性教育であるという圧力があってなかなか適切な指導が行われていないのが現状のようです。しかし中絶した女性の3分の2は中高生ということからも、ただ手をこまねいてよい事態ではないことは明らかです。

昔のような純潔教育は難しいでしょうが、せめて正しい避妊の方法を、その年代の中高生にも教え、身を守る知識を身につけさせることは急務だと思います。

さて、私たちゾンタクラブは、子宮頸がん予防ワクチン接種無料化促進の運動をしていますが、性感染症と子宮頸がんの関係もお話いただきました。ヒトパピローマウイルスに感染すると、その一部ががん化し、数年あるいは数十年のうちに前がん病変し、がんになりますが、ワクチンを接種するとかなりの確率でがん化するのを防ぐことができるということです。前がん状態では自覚症状もないため、手遅れになることも多いので、子宮頸がんを落とすことがないよう、十代のうちの予防接種が強く望まれます。

これからの日本を背負う若い世代の男女が、一時の衝動や無知のために心や身体に一生の傷を負うことのないよう正しい知識と良識を持つようにと願わずにはられません。

特に女性のこころとからだの健康は、ゾンタの大きな目標でありますから、この運動をもっともっと前進させていく必要があると感じました。

ワークショップ

久岡 眞佐代



エリアミーティングに参加するたびに各エリアディレクターの創意工夫された企画に驚かされます。今年は昼食会が懇親会となり、午後5時には全ての議事が終了するというスピードアップされた会議となり、親の介護に追われる私には大変有り難い日程でした。

会議の冒頭に仙台Iゾンタクラブから東日本大震災で根こそぎなくなった状況を伺い、その悲惨さに言葉を失い、今こそゾンタの使命を発揮するときだと改めて意を強くしました。

ワークショップにおいては、上田ガバナーから発表された下記の5つの目標に基づき、各役員から詳細な報告がありました。各役員から熱意溢れるメッセージをいただき、我が身の奉仕活動の未熟さ、至らなさを感じ、反省するばかりです。

「2010～2012 26地区の5つの目標」

- (1) 会員満足度の向上に向けて
- (2) 知名度向上に向けて広報力強化
- (3) 会員増強・組織拡大に向けて
- (4) 50周年記念事業
- (5) 国際ゾンタ財団への寄付

国際ゾンタが全会員を対象として「会員満足度」を調査した結果、日本の会員の満足度は12%、32地区中最下位だったという報告がありました。アンケートは設問次第という面もあり、一概に真実とも言い切れず、数字よりも不満な理由を十分に検証する方が今後の国際ゾンタの活動に大いに役立つと思います。

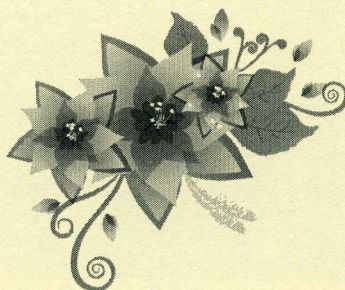
私の知る限り、多くのゾンシャンはそれなりにゾンタを楽しんで満足しており、だからこそゾンタは続いており、日本のゾンタは創立50周年を迎えるのです。



大阪Ⅱからの参加者



ゾンタストアにて



フランツ・リストとマリー・ダグー 恋の軌跡

内藤 恵子



4月24日、前日の悪天候と打って変わっての春盛りの天気にも恵まれました。第1部は「フランツ・リストとマリー・ダグーの恋」、第2部は「フランツ・リスト 愛のプロムナード」。坂本千代先生の講演、船橋美穂先生のピアノ独奏、河村さと子先生のソプラノ独唱と盛りだくさんの趣向で、会場は満席でした。大阪Ⅰ、京都雅、京都Ⅱ、奈良ゾンタクラブの皆様、一般の方々、宝塚の生徒さんと華やかな客席でした。第1部は坂本先生のご専門領域なので、リストの恋の始まりから、恋がさめて2人が亡くなるまでを、歴史的背景や文化人との交流を交えて楽しくお話していただきました。今回の講演のためにリスト生誕の地にも行かれて、生家の写真も見せていただきました。

第2部のピアノ独奏では、リストにもこのような穏やかな曲があるのですねと船橋先生にお聞きしたら、そういう曲を選曲したのよとおっしゃっていました。恋のムードが盛り上がる曲でした。河村さと子先生のソプラノ独唱では、5曲歌ってくださり、最後の「愛の夢」は、ピアノでよく知られていますが、歌曲として作られたものだそうです。フライヒラートの詩は、「愛しうる限り、愛しなさい。あなたが墓場の前で、嘆く時がきつとくるから。(…)いつも彼を喜ばせてあげなさい。悲しい時間を彼には与えないでいなさい」という、激しい内容だと教えて頂きました。ピアノ曲では甘く切ない気持ちになっていたので、驚きました。

イベントの打ち上げに、小林一三氏の旧邸「雅俗山荘」で洗練されたクラシカル・モダンフランス料理を頂きました。今回の収益金と合わせて、2,018,810円を東北太平洋地震義捐金基金に送りました。ご協力ありがとうございました。

大阪Ⅱゾンタクラブ チャリティーイベント Vol.17

フランツ・リスト生誕200年記念 「フランツ・リストとマリー・ダグー 恋の軌跡」

2011年4月24日(日)午後3時開演 新逸翁美術館マグノリアホール(大阪府池田市)

第1部：講演「フランツ・リストとマリー・ダグーの恋」

お話：坂本千代

第2部：演奏

「フランツ・リスト 愛のプロムナード(Ⅰ)」

ピアノ独奏：船橋美穂

『巡礼の年 第2年 イタリア』より「婚礼」「ペトラルカのソネット104番」

『巡礼の年 第1年 スイス』より 「泉のほとりで」

「フランツ・リスト 愛のプロムナード(Ⅱ)」

ソプラノ独唱：河村さと子 ピアノ伴奏：船橋美穂

「君は花のようだ」(ハイネ詩)、「飲びに満ち、苦しみに満ち」(ゲーテ詩)、

「それは素晴らしいことにちがいない」(レドヴィツ詩)、

「至高の愛 “愛の夢”第1番」(ウーラント詩)、

「おお、愛しうるかぎり愛せ “愛の夢”第3番」(フライヒラート詩)



出演者(左から船橋、坂本、河村)

創成期の日本のゾンタクラブ

笠置 伸子



2月の例会は10日にロイヤルホテルのベラコスタに於いて大阪Iゾンタクラブ唯一のチャーターメンバーである佐々木静子先生をお迎えして「創成期の日本のゾンタクラブ」について卓話をして頂きました。

- 1919年 アメリカ ニューヨーク州バッファロー市で最初のゾンタクラブが誕生した。
- 1961年 東京で日本初の東京ゾンタクラブが設立され認証状伝達式が行われた。
- 1965年 大阪ゾンタクラブが東京からの情報が来て設立されたのではなく、直接アメリカからの情報でヘレン・ソロ女史の指導の下誕生した。
5日4日シビラ国際会長代理のヘレン・ソロ女史出席のもと認証状伝達式を行った。(シビラ国際会長は国連に強い繋がりを持ち、ゾンタクラブから代表一人を国連の理事に送り出している)
5月17日、東京ゾンタクラブをソムクラブとして京都に3番目のゾンタクラブが誕生した。
- 1969年 5月に仙台ゾンタクラブ、横浜ゾンタクラブが誕生し、日本合同懇親会が東京に於いて東京、大阪、京都、仙台、横浜各クラブ参加のもとに行われた。
その後、次々と徳島、札幌と認証状伝達式が行われた。
- 1971年 アジアで最初の第一回リジョンセミナー大会をマニラに於いて開催した。
- 1994年 3月10日、大阪Iゾンタクラブをソムクラブとして、佐々木静子会長の下で大阪IIゾンタクラブの認証状伝達式が盛大にとり行われた。

大阪Iゾンタクラブは、一業界一人という規則で業界のトップクラスの女性をチャーターメンバーとしてスタートした。その中には、医師、弁護士、教育者を必ずメンバーに入れて、初代会長牧野夫佐子姉の下で発足した。

チャーターメンバーは飯田順姉(大手前高女の教師)、杉村光子姉(津田塾出身)、その妹瀧村慶子姉(瀧村織物)、女性初の厚生大臣中山マサ姉、バイオリニストの辻久子姉、女性作家の山崎豊子姉、当時大変珍しかった大学教授の大原一枝姉、法律家として佐々木静子姉、医師は内科医として貴田茂子姉、産婦人科医は牧野夫佐子姉、眼科医として近江栄美子姉が決まった。舞踏家として宝塚歌劇の天津乙女姉、美容師として山口倫子姉、津田塾出身の山川ヒサ姉、切替章姉、茶道家として藪内映子姉、YMCAの広岡貞子姉、その他、書道家、画家、服飾デザイナー等をメンバーに加えて発足した。

その後、花外桜の徳光清子姉、ロックペイントの辻恵美子姉、UCCの上島禎子姉、大阪府女医会会長の川田喜代子姉、その他有力メンバーを加えて今日の発展に至った。

改めて佐々木静子先生に、大阪IIゾンタクラブの一人として感謝申し上げます。沢山の資料の中からチャーターメンバーならではの貴重な卓話を聞かせて頂き、有難うございました。



佐々木先生を囲んで

年間活動報告

年月	主 な 行 事
2010年 6月	10日 例会 ・2009年度 年間活動報告・決算 承認 ・2010年度 年間計画 協議
7月	8日 例会 ・2010年度 年間活動計画 承認 ・2010年度 予算 審議・承認 ・チャリティーイベント 協議 Zフローラプロジェクト 署名活動始まる
8月	7日 納涼会 (淀川花火船) 子宮頸がん予防ワクチン公費負担の請願署名を地区へ提出 (厚生労働省へ) 子宮頸がん予防ワクチンの請願署名を大阪 I と大阪府健康づくりがん対策課に提出
9月	5日 国際ゾンタ YWPA 地区賞授与式 清水美沙さん 5日 「ひょうごセルフヘルプ支援センター」10周年記念事業に参加 ハンドベル演奏と奉仕寄付 ゾンタのリーフレット300人に配布 於 兵庫県民会館ホール 9日 例会 ・卓話 「かざぐるま立ち上げの経緯・奮闘と9年目の現状」 いこま福祉会 理事長 関谷多摩江さん 理事 草場暁美さん 奉仕寄付、感謝状授与される ・チャリティーイベント 準備 会報誌第30号 発行
10月	10～11日 秋の親睦旅行 エクシブ鳴門 31日 移動例会 宇治の源氏物語ミュージアム、平等院を訪れる
11月	11日 例会 ・卓話「日本の近代音楽の夜明け」 河村さと子会員 チャリティーイベント準備
12月	4日 例会 忘年会 (於:桃谷楼) 9日 アメリア・イアハートの映画鑑賞 「アメリア永遠の翼」 奉仕寄付……ベトナム・ベンチェ 障害女生徒の職業訓練学校 宮本会員 現地にて奨学金授与、感謝状授与される 社会福祉法人 関西いのちの電話へ奉仕寄付
2011年 1月	20日 大阪 I・II 合同新年例会 (於:花外楼 大淀別邸) 早川 AD をお迎えしての合同例会 歌とハンドベル演奏
2月	10日 例会 ・卓話 「創成期の日本のゾンタクラブ」 弁護士・大阪 I 佐々木静子さん ・2010年度 国内・国際奉仕活動・寄付先の報告と承認 ・2011年度 奉仕活動・寄付先の検討 ・指名委員選出 奉仕寄付……大阪市ゆとりとみどり振興へ奉仕寄付・感謝状授与される 公益財団法人 プラン・ジャパン (日本フォスタープラン協会) へ奉仕寄付
3月	10日 例会 ゾンタローズデーをお祝いしてシンボルの黄色い薔薇をテーブルに飾り、ゾンシャンであることの幸せを共有 次年度役員・会計監査選出 奉仕寄付……大阪府女性基金へ奉仕寄付・感謝状授与される 国際ゾンタ財団へ国際寄付 会報誌第31号発行 チャリティーイベント 準備
4月	3日 大阪府女医会市民公開講座 後援 「子ども虐待問題にいかに関わるか」 24日 チャリティーイベント Vol.17 フランツ・リスト生誕200年記念「フランツ・リストとマリー・ダグー 恋の軌跡」 講演 神戸大学大学院教授 坂本千代会員 演奏 宝塚音楽学校講師 河村さと子会員 / ピアノ 船橋美穂さん 於 池田市 新逸翁美術館 マグノリアホール 24日 例会 チャリティーイベント懇親会 東日本大災害支援のため、ゾンタの東北太平洋地震義捐金基金に大きく協力
5月	12日 例会 一年間の活動をふり振り返り、次年度に向けて 21日 エリア3 第3回エリアミーティング 於 京都 ホテルオークラ ゾンタストア出店 26日 新旧役員引継ぎのため役員会

震災2ヵ月後のベトナム訪問、チン・コン・ソンの歌

宮本 典子



5月末、京都のエリアミーティングの翌日から孫達のピアノ発表会の前日まで、5日間ベトナムに行きました。6月に入るとあちらは夏休みに入り、また、建築中の特別支援児学校の様子も知りたかったからです。

ベンチェでは東北大地震について、元知事のレ・フィンさんはじめ皆からお悔やみと、あのときは私達の安否をととても心配したが、問い合わせたところ、大阪は離れているので大丈夫と聞いて安心したと言われました。生徒達も応分の募金をした、これは分かち合う心を育てる良い機会だったとのことでした。

5年間のまとめとして上級クラス計33名、基本クラス（ここ2年）32名在籍したが、上級クラスのうち10人が結婚し、3人の子供が生まれた、彼女達は家で刺繍をしていると言われました。私が行った時は13人いました。震災で日本も大変だと思うが支援がなければ何もできないので今後も引き続き御支援頂ければ有り難いと言われました。

続いてカンボジアとの国境の町チャウドクの幼稚園も訪問しました。5月は雨期のはじまりで相当の暑さでしたが、移動の車内、ホテルは冷房も効いていて、旬のマンゴーもドリアンも美味しく楽しい旅でした。

帰りの車中、運転手が聞いていた曲を聞いたところ、チン・コン・ソンの曲だそうで、早速、探してもらいました。

チン・コン・ソン（Trinh Cong Son）はベトナムの英雄的作詞作曲家で、その歌が反戦的だと、戦時中は歌ってはならないとされていたそうです。

最初にベトナムを訪れた時レストランで生演奏されていた「美しい昔」に惹かれて以来、私も大ファンになってしまいました。この曲は日本でも天童よしみが歌っていて良く知られているようですが、日本語の歌詞と違いベトナム語の歌詞はもっと内省的な愛の歌で、私はベトナム語の方が好きです。「古い塔に霧雨が降っている - 傍らの石畳の上の枯れ葉を踏んで彼女の小さい足は去って行った -」というような意味です。ベトナムの人は音楽が大好きで、またチン・コン・ソンの歌が好きで、哀愁を帯びた歌の好きなどころは日本人と共通するなにかがあるように思います。



2011/05/22

刺繍教室の生徒たちと

Người hát bài quê hương
Paris Công Sơn

hương chi ngời vàng im bên lầu mắt trâu chầu gần núi
sông đưa con ra đời chi nghiêng mình xuống
nhìn bóng hoàng lai / /

Saigon 1972

Trinh Cong Son

(Thủ bút và chữ ký của Trinh-Công-Son)

娘の留学

清水 聖保



昨年16歳の娘、美沙がYWPA（若い女性のための社会事業）賞を頂いた直後にドイツ留学をし、この夏、帰国しました。リーダーシップを発揮して、ボランティア活動を行っていることをテーマにYWPAに応募したのです。その際、働く女性について、あるいは世界の女性と日本女性との違い、男女の差などについても考えさせられるテーマについて、いろいろな論述をせねばならず、娘は本当に今までそのような大きなことは考えたことはなく、ただチャンスを頂くと、与えられた状況下でのボランティアを率先して行って参りました。そのため、働く女性や世界の女性についての記事などを読み、勉強したようです。ただ、その時は読むことから学んだ知識でしたので、自分で体験することはなく、活字がたくさん頭の中に入ってきただけだったのでしょうか。ところが、今回ドイツ留学を終え帰国した娘は、ドイツがヨーロッパにあることも幸いして、周辺の国々へも様々な方々に行くことができ、また、ホストファミリーにも恵まれ、素晴らしい経験とともに、文化や生活、言語の違いから学んだものも大きかったようです。たくさんある中の2つをお話しします。

1つは、ホストファミリーがドイツ人でありながら、東西のドイツ冷戦時代に居住地を追われ、ロシアのカザフスタンで長年生活をしてきたため、親戚、家族が集まると、皆がロシア語で話すそうです。様々な経験や、ドイツ人でありながらドイツで生活出来なかった状況、陸続きであるがゆえに移住することが出来たこと、文化の違いからロシア語での生活を余議なくされたこと、家族全員（もちろん女性も）が働かななくては生活できないことなど多くの体験を聞いたようです。

2つ目は、東日本大震災で福島原発の問題が浮上した際、ドイツは即、国中の原発を停止したのです。また、娘の通う高校の学生も皆が一丸となって、クッキーを焼いて売ったりして義援金を集め、日本赤十字に送金したのです。このような行動力や実行力を、高校生なりに、日本と違うと感じたようです。首相のひとことで原発停止、日本が大変なことになっているという報道で国民が皆動く、という状況を目のあたりにして文化の違いを感じたといいます。また、女性は働くことを当然とし、いかに社会貢献ができるかを常に考えているというのを実感してきたようです。

1年間の留学は、YWPA 応募の時より世界を知り、これからの娘の人生に大きな刺激と経験をもたらすこととなりました。この貴重な経験を親は見守り、援助していくための情報を与えることが役割なのだを実感する日々です。



清水美沙さん

編集後記

前回「編集後記」を書いたのは2月でした。その直後に大震災・大津波が東北地方を襲い、福島の原子力発電所の問題が起きました。日本にとっては悪夢の半年だったと思います。まさに「一寸先は闇」ですが、私たちゾンシャンも持てる限りの力を結集して、閉塞状態の日本を少しでも良い方向に向けていきたいものです。

坂本 千代